

2022年度

応用化学専攻 褒賞、奨学金 授与式

早稲田大学 大学院先進理工学研究科 応用化学専攻

2022年度 応用化学専攻 褒賞、奨学金 授与式

日時：2023年3月9日（木）

場所：62号館W棟 大会議室

司会：小堀・門間（4年 大学院担任）

1. 開会の辞 (16:00-16:30)

2. 大学院先進理工学研究科長祝辞 鹿又 宣弘 様

3. 第36回 水野賞・水野奨励賞／第37回 水野敏行奨学金授与式

4. 第18回 応用化学会給付奨学金授与式

5. 第9回 中曽根荘三奨学金授与式

6. 第8回 里見奨学金授与式

7. 第5回 森村豊明会奨励賞授与式

8. 祝辞 応用化学専攻主任 下嶋 敦

9. 来賓ご祝辞

水野家代表、元応用化学会 会長
早稲田応用化学会 副会長
里見奨学会 事務局長
森村豊明会 理事

河村 宏 様
橋本 正明 様
田部 修士 様
森村 潔 様

10. 受賞者代表挨拶 浅原 光太郎 君

11. 閉会の辞

12. 記念講演会 (16:30-17:30)

中央大学 教授

小松 晃之 様

13. ポスター発表会, 懇親会 (17:30-18:30)

- 水野賞・水野奨励賞受賞者
- 水野敏行奨学金受給者
- 応用化学会給付奨学金受給者
- 中曽根荘三奨学金受給者
- 里見奨学金受給者
- 森村豊明会奨励賞受賞者

2022年度 水野賞受賞者

あきはら こうたろう
浅原 光太郎 君

Nucleophilic Aromatic Substitution and Denitrative Coupling to Construct Carbon Skeletons
芳香族求核置換反応と脱ニトロ型カップリングによる炭素骨格構築法の開発

おなぶた ゆうすけ
女部田 勇介 君

Zn 二次電池負極における Zn 析出成長のマルチスケールシミュレーション及び実験的解析
Multiscale Simulation and Experimental Analysis of Zn Growth Process on Secondary Battery Negative Electrodes

かねこ けんたろう
金子 健太郎 君

Development of battery architecture based on conducting and insulating nanotubes that enhances energy density and thermal stability
エネルギー密度と耐熱性を向上する導電性・絶縁性ナノチューブベース電池アーキテクチャの開発

さいとう あみ
齊藤 杏実 君

Synthesis of potent plant circadian clock modulators
高活性な植物概日時計長周期化分子の創製

ワン タンゲンウ
王 譚彦宇 君

Zn 空気二次電池における電極表面の化学状態の in-situ ラマン分光解析
In-situ Raman Spectroscopy Analysis on Chemical States in Electrode Surfaces of Rechargeable Zinc-air Batteries

2022年度 水野奨励賞受賞者

かみべ たくま
上邊 卓麻 君

Organic Modification of Outer Surface and Interlayer of Double-Layered Nanosheets Prepared Using Layered Hexaniobate
層状六ニオブ酸塩から調整した二層ナノシートの外表面および層間への有機修飾

2023年度 水野敏行奨学金受給者 (但し、学年は受給年度に合わせて表記)

かとう ひろき
加藤 弘基 君 (博士3年)

パラジウム触媒による脱芳香族的官能基化反応:機械学習手法を用いた不斉触媒反応への展開

くろさわ みき
黒澤 美樹 君 (博士3年)

ジアリールケトンの触媒的脱酸素型変換反応によるマルチアリアルカン合成

わたなべ せいご
渡辺 清瑚 君 (博士3年)

ランダムかつ密な水素結合ネットワークに基づくチオウレア含有超高屈折率ポリマー

あいだ かずひろ
会田 和広 君 (博士2年)

ジルコノセン/可視光レドックス触媒を用いた環状エーテル開環反応

やまの りょうた
山野 遼太 君 (博士2年)

電場印加反応場を用いた低温域での二酸化炭素の転換及び反応機構の解明

よしだ けいすけ
吉田 啓佑 君 (博士2年)

MgH₂ 多孔質シートへの水素流通による熱供給・水素吸蔵放出制御プロセスの開発

いとう だん
伊藤 暖 君 (博士1年)

銅へキサシアノ鉄酸のリチウムイオン伝導に静的 Jahn-Teller 歪みが及ぼす影響

2022年度 応用化学会給付奨学金受給者 (2022年4月に選考、通知書授与済)

なかはら ひかる
中原 輝 君 (修士2年)

クライゼン/レトクライゼン縮合によるケトンとエステルの官能基メタセシス

ちしま けんしん
千島 健伸 君 (一貫性博士1年)

二酸化炭素の水素化による常圧下でのエタノール合成用気固触媒の開発

たなあみ りゅうのすけ
店網 隆之介 君 (学部4年)

かみおか こうた
上岡 滉太 君 (学部4年)

たちばな さくらこ
立花 桜子 君 (学部 2 年)

さとう はるか
佐藤 晴香 君 (学部 2 年)

いちむら わかな
市村 和可奈 君 (学部 2 年)

2023年度 中曽根荘三奨学金受給者 (2023 年度は該当者なし)

2023年度 里見奨学金受給者

ちん ほうひ
陳 鵬飛 君 (博士 3 年)

炭化水素の気相熱分解の理解と制御によるカーボンナノチューブの高効率合成

なかがるまい じゅん
中軽米 純 君 (博士 2 年)

変異原性物質 ABAQ の全合成研究

とがし あすか
富樫 明日香 君 (博士 2 年)

トリカブト毒アコニチン BCDEF 環部およびビスインジゴチンの合成研究

Mingyuan WANG (王 明遠) 君 (博士 1 年)

ホウ素および窒素共ドーピング炭素触媒に対するアンモニア電気合成の電解質依存性

くぼ まさゆき
久保 真之 君 (博士 1 年)

触媒的エステルダンス/脱カルボニル型カップリング反応およびニトロ基交換反応の開発

なかはら ひかる
中原 輝 君 (博士 1 年)

クライゼン/レトロクライゼン縮合によるケトンとエステルの官能基メタセシス

みやざき りゅうや
宮崎 龍也 君 (博士 1 年)

多様な分子創出を志向したクロロメチルポリル-N-トシルヒドラゾンの合成と反応

さんべい ひろし
三瓶 大志 君 (博士 1 年)

量子アニーリングの原理を用いた表面分子の吸着形態の探索

もりや えいと
守屋 瑛人 君 (博士1年)

ニッケル触媒によるエノール誘導体とベンゾオキサゾール類とのエノラートダンス/カップリング反応

わたなべ こうすけ
渡辺 光亮 君 (博士1年)

ケミカルループ型エタン酸化的脱水のための新規酸素キャリア材の開発

おおき ふうごう
大木 風豪 君 (修士2年)

ピラゾロアジン類の開環型ジフルオロ化反応の開発

ひこさか たく
彦坂 拓 君 (修士2年)

環状アルコールの環開裂を鍵としたセコトリテルペノイド類の合成

あきやま ひろむ
秋山 広夢 君 (修士1年)

ケギン型ポリオキソメタレートのプロトン化特性の理論化学的検討

たなあみ りゅうのすけ
店網 隆之介 君 (修士1年)

アントラセン-ナフトキノン付加体を連結部位とした架橋ポリマーの可逆性

もりた なおき
森田 直樹 君 (修士1年)

Aspergichromone 類の全合成研究

さかもと りょうすけ
坂本 涼祐 君 (一貫性博士1年)

フェナントレンの電解酸化開裂反応の開発

2022年度 森村豊明会奨励賞受賞者

くぼ まさゆき
久保 真之 君 (修士2年)

触媒的エステルダンス/脱カルボニル型カップリング反応およびニトロ基交換反応の開発

さんべい ひろし
三瓶 大志 君 (修士2年)

量子アニーリングの原理を用いた表面分子の吸着形態の探索

水野奨学金について

水野奨学金は、水野敏行氏が1987年1月5日に88歳で逝去された時の遺言を基に、ご遺族から早稲田大学応用化学科へ指定寄付された1億円を基金として設立されました。ご遺族のお話では「終生頭の中には、応用化学と電気化学工業のことしかなかった」とのこと。同氏は1898年東京生まれ、理工学部応用化学科第2期生として1923年に卒業されました。卒業後、電気化学工業株式会社に入社され、1967年から1970年には同社社長に就任、その発展に大きく貢献されました。OBとして早稲田大学の発展に注力され、応用化学科の発展のため、将来性のある学生に役立つようにと寄付をされた本基金は、わが国の明日を担う新進気鋭の学生諸君を激励するために役立っており、授与された学生たちはそれぞれの分野で活躍しています。2021年より博士進学を志す優秀な修士課程奨学生も新設し、博士後期課程奨学生への支援もさらに拡充しました。

水野賞について

水野基金を原資とし、学位取得を予定している者のうち、優れた研究を行い学位論文を成し博士号を取得する学生を表彰しています。

応用化学会給付奨学金について

応用化学の発展に卒業生および卒業生の所属する組織(応用化学会)として助力したいと言う観点から、将来応用化学科から世界に羽ばたく優秀な人材の発掘と育成の一助となることを願い、卒業生からの寄付金を基に応用化学会が2005年度に設立しました。本奨学金は、2022年度より学部学生も対象に加え支援を拡充、応用化学科に所属する教員が研究指導する修士課程1、2年ないし一貫制博士課程1、2年、および応用化学科の学部2～4年の学生の中から博士号取得を志す学生を対象としています。

中曽根荘三奨学金について

中曽根荘三氏は、1946年応用化学科を卒業、大学院文部省特別研究生として「高分子の関わる界面化学」の研究に従事した後、千代田化工建設株式会社、日商岩井(現・双日)株式会社で役員まで務められました。一方、本学では創立百周年記念募金委員として多大なるご協力を頂き、1957年には早稲田大学高研会の設立に初代会長として関わられました。氏より、「高分子の関わる界面化学」分野の研究発展に貢献しようという強い志をもつ先進理工学研究科の大学院生を支援することを目的とした奨学金設置のため、寄付金の申し出がなされ、大学は、中曽根氏のご厚志に報いるため、2014年にその寄付金をもって中曽根荘三奨学資金を新設しました。

里見奨学金について

公益財団法人里見奨学会は日本パーカライジングの創立者故里見雄二氏が1956年に設立されたものです。2016年、早稲田応用化学会の元会長で現日本パーカライジング株式会社会長である里見多一(さとみかずいち)氏からのお申し出により応用化学の学生を対象に奨学金を給付して頂きましたが、2019年には新たに学内の冠奨学金として給付が開始されることとなりました。里見多一氏は1974年早稲田大学応用化学科修士課程を修了され、早稲田応用化学会給付奨学金制度を作られたときの本会会長でもあり、母校への熱い思いで学生支援をして頂いております。里見奨学会奨学金は、志の高い優秀な学生諸君を対象とし、有為な人材の育成と教育の振興に寄与していくものです。

森村豊明会奨励賞について

多額の費用がかかるからと周囲が心配するのを振り切り大隈重信侯が1917年に早稲田大学に応用化学科を設立した際、その実験室と建物を提供し支援をされたのが森村市左衛門(六代目、校賓7番)氏です。森村氏は、明治期に苦勞して事業を興し、日本を代表するセラミックス企業を次々と設立しました。学科の三代目実験室だった現6号館(本部キャンパス)も森村豊明会が多額の寄付をされ建設されたもので、今も豊明会記念応用化学実験室の銘板が壁に掲げられています。創立百周年の機会に、森村豊明会より奨励賞授与の申し出を受け、2019年より褒賞として森村豊明会奨励賞(学部・大学院)が設置されました。博士後期課程に進学する志ある優れた修士課程の学生に対して授与、給付され、(株)ノリタケカンパニーリミテドの記念品も贈呈されます。また、当該年次毎に極めて優秀な成績を修めた学部学生にも褒賞を授与しています。